**聖霊降臨節第15主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年9月3日**

**「小さなことを軽んじない」**

**出エジプト記18章21～23節**

**18:21 あなたは、民全員の中から、神を畏れる有能な人で、不正な利得を憎み、信頼に値する人物を／選び、千人隊長、百人隊長、五十人隊長、十人隊長として民の上に立てなさい。**

**18:22 平素は彼らに民を裁かせ、大きな事件があったときだけ、あなたのもとに持って来させる。小さな事件は彼ら自身で裁かせ、あなたの負担を軽くし、あなたと共に彼らに分担させなさい。**

**18:23 もし、あなたがこのやり方を実行し、神があなたに命令を与えてくださるならば、あなたは任に堪えることができ、この民も皆、安心して自分の所へ帰ることができよう。」**

**使徒言行録6章1～7節**

**6:1 そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。**

**6:2 そこで、十二人は弟子をすべて呼び集めて言った。「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。**

**6:3 それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。**

**6:4 わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」**

**6:5 一同はこの提案に賛成し、信仰と聖霊に満ちている人ステファノと、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで、**

**6:6 使徒たちの前に立たせた。使徒たちは、祈って彼らの上に手を置いた。**

**6:7 こうして、神の言葉はますます広まり、弟子の数はエルサレムで非常に増えていき、祭司も大勢この信仰に入った。**

**一難去ってまた一難。一つの問題が解決してようやく一安心と思ってほっとしていると、また新たな問題が発生しその問題に向き合わなければいけない。これは私たちの人生においてもそうです。仕事で何かトラブルが発生して苦労してようやくそのトラブルが解決したということで「これで安心できる」と思っていた矢先に、今度は家族のことで問題が発生した、なんていうことをしばしば耳にします。「神様はなぜこんなに次から次に困難を与えて、私を苦しめるのだろうか」と神様に対して嘆きたくなります。**

**私たちはできることならば問題や困難や苦しみのない人生を歩みたいと思います。しかし、私たちが何の問題や困難や苦しみの無い人生を送ったとしたら、人生が順風満帆そのものだとしたら、私たちは自分の力を過信し思いあがってしまうでしょう。また、人の痛みや苦しみが全く分からない、寄り添うことができないという非常に冷たい人間になってしまうのではないかと思うのです。**

**次から次に起こる問題は苦しく大変なものですが、その問題から目を背けたり軽んじたりすることなく、真剣に向き合い、祈りつつ丁寧に取り組んでいく、そのことを通して私たちは神様から多くの恵みをいただくことができるのです。それは私たちの人生の事だけではなくて教会においても同じことがいえるのです。一つの問題が起こってそれが解決して一安心と思ったらまた次の問題が起こる。そしてその問題に一つ一つ丁寧に祈りつつ取り組んでいく、そうした中で神様から多くの恵みをいただくのです。**

**私たちは使徒言行録を通してペンテコステに誕生した最初の教会の姿を共に見ています。多くの恵みを分かち合い、また多くの人がイエス様を救い主と信じて洗礼を受け教会はどんどんと成長していきます。でもその歩みは決して順調なものではありませんでした。イエス様の名前で語ること、すなわち伝道することを禁じられました。その時には心を一つにして祈りました。アナニアとサフィラの献金偽装事件がありました。神様を畏れる大切さを改めて知った教会はソロモンの回廊に出ていき礼拝をし、伝道をしました。その結果使徒たちが捕らえられて時の指導者たちに殺されそうになりました。そんな時にガマリエルという律法の教師の思いがけない助けによって難を逃れました。使徒たちはまた教会は迫害に会いながらも福音を告げ知らせ伝道を続けました。さらなる迫害の恐れはありましたが、命の危機という非常に大きな危機を乗り越えた教会は伝道に励んだのです。**

**そうやって、教会の歩みはまさに一難去ってまた一難、一つの問題が起こりそれが解決して安心だと思ったらまた新たな問題に直面するのです。教会の外からの問題と教会の中の問題、そのいずれにも一つ一つ丁寧に向き合って、祈りを持って取り組んだのです。今回は迫害という教会の外からの問題が解決したかと思うと、今度は教会の中から問題が起こったのでした。**

**それが、6章1節に記されている問題です。**

**「そのころ、弟子の数が増えてきて、ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た。それは、日々の分配のことで、仲間のやもめたちが軽んじられていたからである。」**

**最初の教会には大きく分けて二つのグループがありました。一つは「ヘブライ語を話すユダヤ人」のグループ。もう一つは「ギリシャ語を話すユダヤ人」のグループです。ヘブライ語を話すユダヤ人というのはユダヤ地方生まれのユダヤ地方育ちという生粋のユダヤ人です。ガリラヤ出身の使徒たちも大きくはユダヤ地方生まれですのでヘブライ語を話すユダヤ人のグループになります。もう一つの、ギリシャ語を話すユダヤ人というは戦争など何らかの理由でユダヤ地方を離れて異国の地に住み着き、何十年以上もたってユダヤ地方に戻って来た2世や3世の人たちです。彼らは当時の共通語であるギリシャ語を異国の地で使用していましたので、ユダヤ地方に戻って来てももはやヘブライ語を話すことができなくなってしまったのです。**

**ヘブライ語を話すユダヤ人とギリシャ語を話すユダヤ人、両方ともユダヤ人には変わりはないのですが、使う言葉が違う、生活習慣が違う上に、ヘブライ語を話すユダヤ人は自分たちの方が上だというプライドを持っていますから、ギリシャ語を話すユダヤ人の特にやもめの女性、夫に先立たれた女性という弱い立場の人を軽んじて食事をきちんと分配をしなかったのです。そのことに対してギリシャ語を話すユダヤ人たちが自分たちの大切な仲間が軽んじられ馬鹿にされていると文句がでたのです。**

**食べ物の恨みは恐ろしいではないですが、食事の分配の問題という問題としては些細と言えば些細な問題ではありますが、この問題を軽んじてほおっておくとヘブライ語を話すユダヤ人のグループとギリシャ語を話すユダヤ人のグループが対立して、教会が分裂しかねない問題に発展する恐れがある非常に大きな問題です。アナニアとサフィラの問題の時にも教会は揺れましたが、そんなのは比にならない非常に困難な問題に教会は直面したのです。**

**使徒たちはこの問題の重要さがわかりました。だからこそ弟子を全て集めてというのは教会の人全てを集めるのです、今の私たちで言うと教会総会を開くようなものです。使徒たちは教会総会を開いて言います。**

**「わたしたちが、神の言葉をないがしろにして、食事の世話をするのは好ましくない。**

**それで、兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう。**

**わたしたちは、祈りと御言葉の奉仕に専念することにします。」（2～3節）**

**この使徒たちの言葉ってぱっと読むだけだと「私たちは御言葉を大切にし、御言葉の奉仕に専念したいから、食事の世話なんて些細なことは7人を選んでその人たちに任せなさい」という意味で言っているようにも聞こえます。使徒たちが食事のことややもめのことを軽んじているようにも思えるのです。**

**でも決してそうではありません。「兄弟たち、あなたがたの中から、“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。」と言っているのです。これは7人を使徒たちが適当に選ぶのではないのです。あなたたちが選びなさいなのです。教会の人たちに選ばせているのです。しかも「“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を7人」と条件を付けているのです。霊と知恵とに満ちた人というのは、神様を愛し隣人を愛し、神様の前に正しい判断ができる人ということでしょう。そういう人たち7人をあなたたちで選びなさいというのです。**

**この使徒たちの言葉を聞いた教会の人たちは真剣に神様に祈ったでしょう。神様の御心を祈り求めて、神様に向き合い神様の助けを祈ったことでしょう。誰が霊と知恵に満ちた人なのか、誰を選べばギリシャ語を話すやもめの女性たちが軽んじられずに食事の配分がスムーズにいくのか、教会がヘブライ語を話すユダヤ人とギリシャ語を話すユダヤ人のグループの二つに分裂しないで済むのか、そして何より使徒たちが御言葉の奉仕に専念できるのか、このことを神様に祈り求めたことでしょう。**

**そうして選ばれたのがステファノ、フィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、ニコラオの7人です。彼らはいずれもギリシャ語の名前です。それはつまりギリシャ語を話すユダヤ人から7人が教会の人々によって選ばれたのです。結果から言えば不公平な感じは否めません。しかし、教会の人々は彼らこそが霊と知恵に満ちた評判の良い人であり、何よりも神様の御心に適う人だと祈り求めた結果がそうだったのです。使徒たちは教会の人たちの祈り求めた結果を尊重しました。不公平だと反発しないで、それこそが神の御心であると受け入れてステファノなどの頭に手を置いたのです。**

**私たちはこのような教会の姿から大切なことを教えられるのです。それは小さなことを軽んじない教会の姿です。もとはと言えば食事の事という、小さなことであっても神様と真剣に向き合う教会の姿です。神様の御心を求めて祈る、心を一つにして何が神様に喜ばれることなのか、今何をすることが私たちに必要なことなのか、小さな一つ一つの問題を決して軽んじることなく真剣に神様に向き合うのです。神様に向き合うということは神様の御言葉に聞き祈るということです。その中で神様の導きがあるのです。**

**この問題が解決してもまた次の問題が起こってきます。でもそんな時でもその一つ一つの問題を決して軽んじないで、神様に真剣に向き合うのです。一つ一つ丁寧に神様の御心を祈り求めて取り組んでいく、それが教会の歩みにおいても、私たちの日々の歩みにおいても大切な事ではないかと思います。**

**私たちは一人で問題に取り組むのではありません。教会の仲間がいます。愛する兄弟姉妹がいます。教会の豊かな交わりがあります。そして何よりも私たちの救い主イエス・キリストが私たちと共に歩んで下さっています。私たちを愛して下さっています。**